

科学暦 瓦版

第十号
科学暦十一年四月二十五日
発行人 科学暦普及協会

60G0S0N
11T 04 25

八七六四三二一
ウ猛文母ベ名黒
サ暑系とビ前の
ギの夏理系一
にが過ぎ去は
なむお話コレクシヨ
五・繋がる縁
::: :::
七七六四三二一
ペペペペペペペ
| | | | | | | |
ジジジジジジジ

黒人兵と玉葱

角辻 豊

この草生す屋根の下の北側の三疊の間の開口部は、昔ながらの障子と雨戸だったがその障子の一枱だけにセロハンが張ってあつて外が見えるようになっていた。家の北側には、ほぼ直角三角形の畑が一枚あり、その向こうに地元の人は十六号線と呼んでいたが正しくは国道二十六号線が左手前の和歌山方面から右向こうの大坂方面へと通じていた。

この泉南地方は大坂湾に面しているので海岸線がほぼ南西から北東になり、主要な幹線道路と鉄道はこれに平行になっている。ところが昔ながらの土地や道路はほぼ南北に区切られ通っている。幹線沿いにはどうしても三角形の地所ができる。我が家の北側の畑もまさにそうして出来たものであった。

戦争に負けてまもなく、来る日も来る日もこの国道を猛烈な砂埃を上げて進駐軍の車の列がえんえんと二十四時間ひっきりなしに大坂方面へと続いた。交通信号なんて洒落たものは無く、国道を横切らないと学校に行けない私どもの地区は、お陰で三日間休校になったほどであった。大坂湾には旧帝国海軍が機雷を大量に敷設していて危険なので、全軍和歌山港に上陸し大坂を目指したのである。はじめは占領軍に何をされるか知れない、と年頃の娘たちは顔に墨を塗って山の中に逃げ込んだりしていたが、時々全軍が一斉に停車してエンジン冷却用の水を手近な井戸に求めるようになり、その態度が紳士的な上に適当なお礼として、飢餓状態にあった当時の日本人にはどこから手が出るような食料品の鑑詰め紙バック (DINNER、SUPPER等と印刷してあった) を惜しげもなく呉れるので、当初は雨戸を閉め切

つて怖がつていた村人たちも徐々に慣れ、はじめは雨戸の隙間から、そのうちに勇敢で好奇心に満ちた者がこわごわ、進駐軍の前に姿を現すようになった。一旦進駐軍に当時としては贅沢なお土産を貰える味を占めると、堰を切つたように我もわれもと水以外に農作物、特に新鮮な野菜や果物を提供するようになり、流石に彼らもそれには餓えていたようで大喜び、大きな缶詰を出してきたりした。驚いたことにその五十センチ角で深さ三十センチ位の缶の中身は真ッ黄色の粒状のサラサラしたもので、当時村人は乾燥卵と言っていたが今にして思えば卵黄だけを凍結乾燥した栄養満点の代物であった。大抵はすぐその場でナイフで切つて食べられるものを差し出していたが、いたずらのつもりか誰かがジープの黒人に泉州名物の玉葱を手渡し

た。貰った黒人兵はサンキューと言

ったかどうかの間もなく目の前でクリクリッとナイフで器用に剥くではないか、さてどうするか、と固唾を呑んで見ていると何とそのままガリガリと生で食べてしまった。玉葱独特のアクなんて感じないのだろうか、へいちやらののである。これにはそばにいた一同大いに驚いた。早速のお返しは例の大きな缶詰だったが、その場にいた者たちがわっと群がる有様はまさに後に母に教えられた言葉「貧すれば鈍する」を地で行っているようで、やはり戦争には負けるものではない、負けるような戦争はするな、と胸に強く刻ませる光景であった。

いづれにせよ、真ッ黒な黒人兵の肌、真ッ白な剥きたての玉葱、真ッ黄色な乾燥卵黄、の鮮やかなコントラストが、敗戦の情けなさとともに、今でも目の奥に焼きついて

いる。

(平成十七年 病床にて)

名前の由来は面白い

角尾昌彦

私は阪大の現役受験の時、英語の得点が百点満点で二十一点しか取れなかった。そのため見事に浪人の憂き目にあった。また、英会話を勉強したことが無かった。一九六一年に松下電器(現パナソニック社)に入社し、二十一年後に研究所からビ德才事業部の企画部門に転勤になった。その翌年の一九八三年に商品会議がアラビア半島の三カ国のサウジアラビア、UAE、クエートで開かれることになった。このとき英語の達者な部下に出張するように指示した。

ところが彼は何かと理由をつけて断った。それもそのはず、現地では週に六日間仕事をし、午後一時〜五時は昼休みで一日に朝夕二回事務所とホテルの間を往復するので疲れること、また、アルコール抜きの夕食後は娯楽がないことが理由であった。私は英語が苦手なので断った。しかし、商品企画部門が不参加の会議は成り立たない。派遣団の団長は、若い営業マンに通訳させるから日本語で良いと言ってくれた。

UAEでの商品会議の初日は販売会社の現地社長の別荘、今のパー

ムアイランドの付け根あたりに位置する所で実施された。商品説明の段になり私は日本語で話し出した。ところが団長氏は約束に反して英語でやれと突然言った。そのとたんドット汗が噴出した。

車の運転中は英会話に集中できなかったもので、その後、通勤を車から電車に切り替え、電車の中でNHKの英会話の放送を聴いて勉強し始めた。四十六歳の手習いであった。

一九八七年に再び研究所へ戻り、定年迄の一〇年間は、家庭用デジタルVTR「DV」規格づくりと、デジタル映像の著作権保護の仕組みづくりに取り組んだ。その間、日米欧の会議にパナソニック社の技術の一員として、時には事務局として、多くの会議に出席した。その時の体験についてご紹介する。

一人だけの出張も多く、英語をしゃべれないでは済まされない。技術会議の時はまだしも、会食の時は間がもたず、堅苦しくて困る。そこで、私は話題を提供することにした。日本のことを良く知っておき、食事の話を提供し、相手の事情の聞き役に徹した。会食の席に着くと先ず相手の名前の意味を聞くことにした。こんな偶然もあった。

ある会食で三人もの「金槌」さんが同席した。Harmsen (ハルムセン)氏、Hamersma (ハーマスマ)氏、Cioacan (シオカン)氏である。前二氏はオランダから北欧系の名前で響きは英語のハンマーにつながる。Cioacan氏はルーマニア語の「金槌」であった。

幾つかの会食で、オランダ人の Rijckaert (ライケルト)氏、de With (デ・ウィット)氏、Rezelman (レーゼルマン)氏、Faessen (ファアーセン)氏、Gestel (ゲステル)氏、Steenbrugge (シュティーンブルグ)氏、Van der Brug (ファン・ブルフ)氏などに名前の意味を訊いた。

Rijckaert は、「金持ち」というような意味の名前で、リヒアルト、リチャード、リカルド、リッチマン、などは言語系の違いこそ有るものの、全て「金持ち」という意味で、世界中に多くある名前である。ライケルト氏が自分の名前を漢字で表現してくれと言ったので「富田」と名付けた。

de With は、「白人」と言う意味で、すごい名前である。「白井」と名付けた。

Rezelman は、漁師という意味であ

った。「魚田、魚住、漁井、魚沼」さんとも名付けられる。

失敗もあった。Faessen は「召使の息子」と言う意味で、これは訊くのがまずかった。

Gestel は、「むかし森林であった所が野原になった」という意味であると Gestel 氏から以前に聞いていた。彼には「森野」と名付けた。オランダのアイントホーヴェン市の郊外に Gestel」と言う地名がある。この時の知識が後日役立った。

ある会食で、フィリップス社の研究部長が、オランダは環境を大事にしているのに、日本は開発が進み「自然が無い」と言い出した。そこで、私は、オランダには Gestel」と言う地名がある。これは「むかし森林であった所が野原になった」という意味である、だからオランダにも昔森を切り拓いてしまったという歴史があったのではないかと切返した。彼の誤解は、彼が東海道新幹線沿線を車窓から見ただけだったことに由来していた。彼が次に来阪したとき、週末に大阪から東京へ移動する機会があったので、途中下車し熱海温泉を楽しみ、その翌日箱根のほうへ行くように助言した。また別の機会には、休日に箕面や奈良公園などへ行くよ

うに助言した。彼が助言を快く受け入れてくれた。その結果、誤解は無くなった。

Steenbrugge氏は自己紹介で「石橋(イシバシ)」と名乗った。既に誰かに入れ知恵されていた。

Van der Brug氏は「池の向こうからやってきた一族」という意味であった。定年直前だったBrug氏は蘊蓄を傾け、Brugには「池」の他に「橋、川」という意味があり、ベルギーのBruges(仏語でブルージュ)はフランス語でBrugge(ブルツヘ)と言い、運河、川、堀と橋のある町という意味だと教えてくれた。また、オランダ語には良く似た綴りでbrug(バルフ、バーク、最近では英語読みしてバーク)がある。このbrugは「城」「石の砦」という意味である。更にBrug氏は、『バーク』と発音された言葉はburgとberg(ドイツ語でベルク山)の区別がつかなくなる、などと教えてくれた。

この時の知識が、一九九八年に南アフリカを観光したときに役立った。一昼夜かけてケープタウンから首都プレトリアへ向かうブルートレインに乗り、高級酒を飲み放題のバーで同行の知識人が、ヨハネスバーグは「ヨハネスの山(Berg)」と言う意味

だと言いつ出した。しかし、

Johannesburgは通常ヨハネスバーグ、又はアフリカーン語(オランダ語が現地の影響を受けて独自の変化したもの)でヨハネスブルグと読み、言うならばヨハネスの城(又は砦)と言う意味である。bergは英語読みすればバークと読めるのでbrugの英語読みと区別がつかないので彼は勘違いしていた。私はJohannesburgの語尾がburgであること、および南アフリカにオランダ人が最初に入植したことを知っていた。すぐにVan der Brug氏に教えられたことを思い出し、同行の知識人に時間をかけて説明した。この時は相手が日本人で言葉に不自由は無かったが、酒が入っているうえに博識を自認する人への説明はかなり難航した。

現役時代の欧米人との会食は、私が名前や地名の由来に強い興味を持つきっかけになった。また、電車通勤は、私の日本史の勉強に時間を与えてくれ、古事記に対する強い興味を引き出してくれた。これらの経験は、一九九八年から始めた古事記の現代語訳(完成二〇〇四年十二月三十日)にあたって、地名や名前の解釈に大いに役立った。



ベビーベッド

佐野 栄春

息子一家が高知へ行き空家となっているが、その三階物置にあるベビーベッドが必要と、芦屋の角辻克子さんが探しに來られた。

角辻家代々の由緒あるベッドだそう、今回御当主の赤ちゃん誕生にそなえてという事であった。一見古き良き時代を感じさせる木製、五面が蚊除けの細かい網張りで頑丈、重厚なもので所々ペンキが剥げ、手すりなど応急処理で白ペンキが残っている。どうも家の息子の所作らしい。

角辻家伝来、兄弟姉妹はじめその他、それに我が家も便乗、孫二人もご厄介になった。この歴史的ベッドを三々四人係りで三階から下ろし、修理に出した。

以下子供ベッドに関し思いつくまま二〜三。

私の子供時代はベッド生活とは縁遠いものであった。勿論生誕時、病院であればベッドにご厄介になった筈で、ガラス越しに親、親族から好奇心と期待一杯で観察されていた。

一方家庭内では多くは座敷、フトン生活で、所謂川の字で両親の間が

定住の場であった。やがて我が家ではわんぱく小僧五人となり、寝フトンの上は格好の土俵、乱闘の場となり、枕が飛び、蚊帳を巻き込み、就寝前の楽しい一時であった。この様はベッド生活では味わえぬ所である。一方孫達ではどこから調達したのか、三段ベッドに大人しく収まっていた。精々ジャンケンポンでベッドの上下を決めるのがルールらしい。秩序正しいといえ、短い海軍生活を思い出す。

総員起しのラップと共にベッドから一斉に飛び起きるのだが、フトンのたたみ方、枕の位置が一線に並ばねば何回でもやり直しとなった。一流ホテルの豪華ベッド(残念ながら経験少なし)は別として、病院ベッドに代表される様に、何となく冷たく事務的な感はいなめない。特に我々老人には暗いイメージに連なるのも止むをえない。その中で、ベビーベッドのみ人生のゆり籠として、多くの夢を育むものであろう。強くたくましい前途を大いに期待したい。



母

名田平 治美

半年の入院生活の後、四月十日に母が亡くなりました。母は私が十才の時からスモン病になり、父が亡くなって最後の十五年位は体の衰えから来る辛さからか、相当辛辣なことを毎日云われ、介護も日増しに大変になりました。母がなくなつて一ヵ月位たつてから母のものを片付けねばと思うと日記がでてきました。私はまだ学校に行つてゐる頃で、今の私と似たような年齢の頃です。日記には思った以上に私の名前が出て来て日々家族のことを考え乍ら生活しています。スモン訴訟の際の文章があり、十才も上の主人にフトンの上げ下ろしから、洗濯、掃除と全部させて、家族にはすまない思いをさせてると、書かれてありました。母の本音を見た気がして嬉しくなりました。最後は胃漏をして一日1千ccの水しか飲めず「水」としか言いませんでした。この日記の文章を母の遺言としようと思ひます。今度生まれ変わつて来る時は闘病の少ない生活が送れるようお願いしています。

私も所帯盛りの母のように日々家族への感謝を忘れずに過ごそうと改めて思ひました。

お母さん スモンとの長い闘いでしたねえ。家のことは心配せずにお父さんとゆつくり休んで下さい。あなたの子供で良かった。

ありがとうございます。



合掌

繋がる縁えにし

山本 節子

(豊中高校八期生)

「次から次へとびつくりの連続、あなたからの電話がすべての始まりでした。」とメールにありました。その電話をかけたのも、たまたま豊氏の遺稿集『オリオンに逝く』の刊行にかかわり、発行後の集まりで角辻克子さんに会っていたからでした。克子さんの高校の同期生名簿に、これこれの名前は載っていませんかとお尋ねしたのです。

一度お会いしただけなのでためらいましたが、六十六年振りの再会となる神戸友の会幼児生活団の同期会

を開こうと、同期生たちの住所を探していたので思い切って電話しました。というのは、神戸幼児生活団七十周年記念同窓会が昨年八月末にあり、同期生三人(男性一人、女性二人)が出席。卒園以来はじめての出会いでしたが、三人とも当時の写真を持参してすぐ打ち解け、是非、同期会をしようということになったのです。同期生二十七名の名前は母の残したノートに挟んであった生活団の身体検査表から分かりました。そのうち消息不明の十六名について兵庫県下の高校、大学の卒業生に該当者がいないか手分けして当たっていました。

私たち三回生が生活団に入ったのは太平洋戦争中で、その後、空襲や疎開のため散り散りになり、お互いの連絡がとれないままでした。そういう事情を電話で話したところ、「私は大阪友の会生活団でした」とのこと。これが最初のびつくりです。「なぜ大阪の」と聞くと、当時は大阪市に住んでいた由。私は阪神西宮から神戸に通っていたと言つと、「小学校はどこでしたか?」なぜそんなことを尋ねられるのだろうといぶかしく思ひながら、「安井小学校(当時は国民学校)」と答えると、「私も」。それでまたびつくり。まさか同じ学校に

入学していたとは思つてもみませんでした。

二年生の五月に西宮の家は爆撃に遭い、私は母と二人で宮城県白石にあった父の生家に行きました。家は全滅しましたが、崩れた家のなかから、母のノートもそうですが、家族のアルバムなどが掘り出されたのは幸いでした。おかげで、幼かった頃や生活団での写真を時々見れば記憶に留めることができました。写真がなければ幼少時代のことを思い浮かべることが難しかったです。

アルバムには安井小学校の二クラス合同の集合写真もありました。私は写っていませんから、白石に行った後、服装からすると秋の終わりか冬に撮られたものようです。背景の校舎(講堂)のガラスは割れたままで、男の子は丸坊主。数人は藁草履を履いています。女の子にはもみ姿もみられます。覚えてる顔もあり懐かしく、また、戦争の痕が残る貴重な写真です。それをコピーして克子さんに送ったところ、同じ写真を持っているといつて、ご自分がどこにいるかメールで教えてくださいました。

八月に白石で終戦を迎え、関西に戻ってきたのは翌年の秋でした。阪

急宝塚線の中山に落ち着き、中山寺成就院にあった箕面自由学園に入りました。自由学園が桜井の校舎に移ったのは翌年十月です。その後、転居を繰り返しましたがずっと阪急沿線で、結婚後は南海沿線に住み、神戸生活団は更に遠くなっていました。それで、七十周年記念同窓会の知らせはとても嬉しく、知っている人に会えるといいと願いながら出かけました。

結局、十一名の住所が新しく分かり、計二十二名に同期会の案内状を生活団修了記念写真のコピーも添えて出しました。皆、思いがけない案内に驚きながら、写真を見て幼い時の記憶が甦ったようです。

同期会は今年の五月下旬に三宮で開かれ、十一人の出席(関西圏五人、首都圏から六人)がありました。当日、会つてすぐには誰が誰か分かりませんが、しばらくすると写真の面影がどこかに残っているように思えてきて、和やかな会になりました。当時のお互いのことはよく覚えていなくても、かつて確かに、同じ時間を過ごしたという思いは心暖まるものでした。同期会で私は人生の原点とつながったように感じました。根なし草ではなく、人生の根っこは生活団にあったのでした。楽し

かった同期会が一回きりで終るのは残念だという声がでて、次回は来年三月に東京で集まることになりました。首都圏在住の人が多いので、今回来られなかった人たちも出席されるかと楽しみです。

六月半ばには克子さんの案内で安井小学校をはじめ、わが家があった末広町、その裏にあった南郷山(今は西田公園)、罹災してから一時住んでいた夙川のピンクレスト(解体されて跡形もなし)、克子さんのおうちがあった所など「子供時代を訪ねる旅」をしました。小学校だけが覚えていたままで、ほかはすっかり変わっていました。記憶の中にある風景と重ね合わせながら、六十年あまり前、自分がこの場所にいたのだと思うと妙な気持ちでした。

帰宅後、克子さんからいただいた大阪友の会会報(07-2号)を読んでいた腰が抜けんばかりに驚きました。「皆さんのお便りから」のなかに、石橋にあった大阪友の会幼児生活団に通っていた頃が家族の幸せだった年月と重なるという一文があり、一緒に通っていた女の子の名前が私の箕面自由学園の同級生だったので彼女とは仲が良く、卒業してからも中山から桜井の彼女の家まで遊びに行ったり、泊ったりもしていたのに、

生活団出身とは全く知りませんでした。その上、筆者の名前にも覚えがあるような気がしました。アルバムにある阪神パークでの写真に写っている「ジュンちゃん」と同じでした。これにも驚き、すぐに「あなたの名前が友の会会報に出ていた」と友人に電話をすると、ジュンちゃんのお父さんは銀行マンだったとのこと。父もあの頃はそうだったので、それで両家族と一緒に阪神パークに行っただのかと思いました。生活団に入るまえの年のことで、私たちの写真を撮つてくださったのはジュンちゃんのお父さんです。会報には、父は「召集されて硫黄島へ送られ、残念ながら二度と家族の元に戻ることはありませんでした」とありました。ちなみに、会報で紹介されていた梯久美子著『散るぞ悲しき―硫黄島総指揮官・栗林忠道』(新潮社)の第八章「兵士たちの手紙」には、家族宛の手紙やジュンちゃんのご両親のことが語られていました。この本を読むと、硫黄島での戦いの様子や書名に込められた意味が分かるとともに、多くのことを考えさせられます。

友人に会報と阪神パークでの写真のコピーを送り、ジュンちゃんに連絡がついたら、会報の筆者と写真に写っている男の子が同じ人か確かめ

てほしいと頼みました。すると、前はジュンちゃん一家が東京に行かれてからも付き合いがあったが、今はご無沙汰で住所不明とのことでした。冒頭の「次から次へとびつくりの連続、云々」のメールは以上の経緯を克子さんに知らせたメールへの返信です。

八月半ば過ぎ、ジュンちゃんの住所がわかったと克子さんから連絡が入りました。大阪生活団の先生に聞いてくださったのです。友人もすぐに手紙を出したようで、八月末、ジュンちゃん本人から電話がかかってきました。突然だったのでこれまたびつくりです。写真に写っていたのはやはり会報の筆者でした。父だけでなく、母親同士も友の会でよく知っていたそうです。写真があるだけで、会った記憶も残っていないのにとても親しく感じ、短い電話でたくさんのお彼岸の頃、来し方を綴った長い手紙と現在のご家族の写真が届きました。「遠くない時期にお目にかかれる機会が訪れることを願います」に同じ思いです。

昨年八月からこのかた、人の繋がり不思議をつくづく感じています。

(科学暦十年十月)

文系と理系

猪野 美子

睡眠中を除くと常に全身痛に晒される「線維筋痛症」という奇病にあって十五年目に入っている。アメリカには二百万人の患者がいると言われているから「日本でも二百万人」の数字が一人歩きしているが、正式な統計は取られたことはなく、わたしの患者推計は二千人に一人である。この病気は例外もあるが、ほぼ成人（大半は女性）に限られる。もし二百万人にもいたら、我が子の友達の母親が「線維筋痛症」であつても可笑しくはないし、ご町内に一人や二人はいることになる。しかし、実際にリュウマチや腰痛（椎間板ヘルニア）で苦しむ人は珍しくもなんともないが、このいかにもうさん臭い病名で痛がつている人には、まだ出会つたことがない。長く処方をしてもらつた（残念ながら利かなかつたが）某心療内科医は、病院勤務医、開業医として数知れない患者を診てきたが「猪野さんのような患者は初めて」と明言される。奇病のゆえんである。

ろへ杭を打ち、こむら返りを引き起こしている——表現が近い。経験がなければ到底理解不能であろう。

もつとヘンなのは四時間以上眠れた時は、目醒めて三分間くらい痛みが消失していることである。たぶん脳が休んで、痛みへの感受性を弱めてくれるからだと思う。「痛みの犯人は脳の働き」は古くから指摘されてきたことだが、わたしもなにかの拍子の心痛とかを脳が覚え、痛みを自覚する時間が長くなり、やがて永遠に棲みついてしまったのかも知れない。ノー天気な人間は罹らないのか？ なら統計はなく、運命のくじ引きに失敗したことになっている。

年がら年中の激痛だから意識を逸らせるのは難しいが、それでもなんとか意識を分散させる方法は必須項目になる。書くことには慣れて、折りしもパソコンを購入してからのここ数年は、ワードで文字を綴ることが唯一の自己防衛策になった。起きている間中書き続けて痛みを宥める日もある。いったん書き出せば、ただいま現在この文章を書いている時のように、休みはほとんど取らない。終わると、待つてましたとばかり倍増された痛みが存在するとしてもた。

「文系で良かったかな」と感じるのは、数学など理系はさっぱりだからである。もし理系人間だったら、高等数学を操つたり、設計図をひねつたりして、痛みの意識は逸らせるのだろうか。脳への緻密な刺激は一層症状を悪化させるのではないだろうか。

最初二百万人患者の幻想に触れた。一度皆さんの周囲に「線維筋痛症」の方がいないか注意して下さらないだろうか。そして万が一見つかったら、その方が文系か理系かを確かめて、さらに出来るなら、どうやって日々を過ごしておられるかお聞き下さらないだろうか。わたしの「野望」は、人知れず悩んでいる同病患者をぜひ掘り起こし、その生き方を知り、文系と理系別に統計を作ることである。そしてノーベル患者賞を創設させ、その第1号受賞の名譽を後世に刻むことである。賛同者の多きを期待いたします。

（十月十五日、科学暦機関誌への寄稿）



猛暑の夏が過ぎ去つて

宝角 弘枝

地球温暖化のせいでしょうか。一杯の紅葉の秋が短く、早や十一月となりました。

私は、平成十七年十一月に六十歳の主人をガンで見送りました。三ヶ月の闘病生活でした。手遅れというよりは、大量吐血で血液のバランスを失い、手術のできない体となつてしまい、注射一本打つのも怖いと宣告されて、家族に看取られて他界いたしました。その後、今は亡き角辻豊院長先生に血圧の薬をもらいに行つた折、主人を見送つたことを申しました。その時、院長先生の首に黒い傷を見つけてはつといたしました。先生もお体をこわしていらつしたのです。

私は、四十代でうつ病にかかり、長きにわたつて院長先生に診察頂いておりました。良くなつたり、悪くなつたり繰り返してお世話になつてまいりました。現在、主人亡き後、年相応に元気で仕事についております。とても感謝しております。今、ご子息の格先生に診察してもらつてよく叱られております。えらそうな患者ですから。父ゆずりの軽い糖尿

病、加えて母ゆずりの高血圧でお世話になっております。なかなか病気がのみこめずに過食しております。

昔、亡き院長先生に、体調のよい時に、「先生、うつ病って賢い人がかかるのでしょうか。自分の力を過大評価して疲れ、その上、反省しすぎてまた疲れはててしまう。そういう人間がかかるのでしょうか。」と質問したところ、「賢い人も、あほな人もかかるから始末が悪い。」と笑って答えてくださいました。そのやりとりが院長先生との深い思い出です。また、泣きながら入院させていただきと訴えたこともありました。すると看護婦さんに、ホコリでは死なないから最低限の家事をして寝ころんでいなさいとアドバイスをいただきました。しかしこちらは病人ですからそれをうけいれられずに一進一退しました。院長先生は診察も早かったし、あつという間に姿を消されていたなあと懐かしさで一杯です。心に傷をもつ患者を相手にしていたのでは、先生の研究時間が無くなってしまいうでしょう。お体の危険な状態の中で、笑顔で診察いただきました。ただ、だまって上着を上げなさいという仕事をされたとき、声が出なくなっただけで胸がつまりました。

人は生まれたときから向かうは死なのでしよう。命ある者の宿命です。ドクターであったから死を受け入れ、かつ死に向かいながらの診察はさぞお辛かったと存じます。先生のご家族の想いはいかばかりであったでしょう。亡き主人は来年七回忌となります。私が元氣であれば、家族で法事を取りおこないたいと存じます。秋の夜長に久しぶりにペンを持ちました。

合掌



ウサギにちなむお話

コレクシヨン

宮崎 修二郎



今年の干支(えと)の十二支は、子(ね)・丑(うし)・寅(とら)のバトンを継いで卯(う)です。

漢字の卯はボウと読みますが、この字はウサギを意味するのではありません。干支の本場シナでは十二支の子(シ)・丑(チュウ)・寅(イン)……十二の記号に動物名を当てた。その習慣を輸入して、動物名を日本語に換えた。それだけなのです。古い時代の日本では、ウサギを「ウ」または「ウサギ」と呼んだことは、当時の文献から推察できます。

まずは語源説から。ただしこれがむづかしい。ややこしい。でも避けては通れない。「日本語源大辞典」(前田富祺 監修・小学館)の記述を引用します。

- ①ウという。ウサギは後の訓(和訓栞)。
- ②本名はウで、サギは梵語ササカ(舎舎迦)を合わせて略転した語(大言海)。
- ③ヲサキ(尾先切)の転(言元梯)。
- ④ウは(菟)。
- サギはサケ(細毛)の転(日本古語大辞典)。
- ⑤ウスゲ(薄毛)の転(日本釈名)。
- ⑥ウサギ(愛鷺)の意(和字正濫鈔)。
- ⑦内へうつぶいた鷺の意(本朝辞源)。
- ⑧かがまつたさまが、憂く見えることから(名語記)。
- ⑨月のなかに現れるからか。ウは中、サギは上(和句解)。
- ⑩ミミフサナギ(耳房長)の義。
- ⑪朝鮮語 토끼(兎)と同源。

⑫「踊角」の別音 *yu-toku* が *usaki* に転訛。はねる義(日本語原考)。

話題転換。ベトナムの十二支には何と、ウサギがなくてネコになっている。ヒツジはヤギで、イノシシはブタに。シナでは竜(たつ)なんて架空の動物は非科学的との理由でパンダと交替した時期がありました。

「これナニ？」

「家紋(かもん)だよ」「家紋って？」家々がその印として付ける紋章。定紋。

徳川家の葵(あおい)の紋の類とは「大辞林」の解説ですが、TV「水戸黄門」の「静まれ静まれ」の、この紋所が目にはいらぬか！の一喝の方が合点が早いかな？



この凶柄は「尻合わせ三兎」。ウサギが三羽お尻をくっつけ合ってる。江戸時代の紋書き屋さんのデザイン発想はお見事！



ウサギの数を数えるときの助数詞は「羽(わ)」。なぜだか、調べてみたが……。ま、鳥は飛び、ウサギも跳ぶからかな？ 私案では把(は)

じやないか・・・ウサギの長い耳を掴(つか)みますやん。



ペットブームなんて優雅なものじゃない。欲と道連れ。日本国中がウサギの飼育ブームに狂奔した。明治初年のこと。ブームには高価、珍種を競うためのインチキやそれに引っかけた詐欺(さぎ)もつきもの。ついに明治六年、政府は禁止令を告示して、一羽につき一円のウサギ税を課した。当時の物価で一円は？と明正昭三代の物価一覧の資料を探したが、書架のどこかへしまい込んで見当たらない。

「クソッ！」



・・・と怒鳴ったお陰で「ウサギの糞学」紹介を思いついた。

物事が切れぎれて続かないたとえを、「ウサギの糞」というが、皆さん

ご存知のそれは第二次の排泄物なので、第一次は首を肛門まで曲げて、おのれが排泄する軟便をきれいに嘗め取る。その栄養を胃腸が吸収し尽くした後の、ポロポロの代物が皆様ご存じの兎糞なんですね。

そうそう、昔から短かな文章を集めた本に「兎糞録(とふんろく)」と名付けたもんだ。「宮崎それがしの本欄

連載もそれだな」という声が耳のせいか聞こえた。「あ、ウサギの逆立ち！」(耳が痛い)。



糞からの連想だが、野生のウサギは窟(あな)を掘って居住する。チャンとトイレの位置も一定の場所に決めているようだ。

そこで思いだしたのがシナの怪奇短編小説集蒲松齡の『聊齋私異(りょうざいししい)』に出てくる「狡兎三窟(こうとさんくつ)」という啖呵(たんか)な(か)。一人の側妾(そばめ)をもっている男に向かって、本妻が罵るのです。

「三つも窟(あな)を持つ狡い兎め」



ウサギの付いた、またはちなんだ市町村名って見当たらない。探してやろうと躍起になったが、アウト。やっとこんな例を見つけた。

所は現在の島根県簸(ひ)川郡斐(ひ)川町。昔同地に鵜という名の峠があり、鷺という湖畔集落があった。二つが合併した村の名が鵜鷺(うさぎ)村。



①「あれこれ」「さまざま」とか、
②「いずれにしても」とか「なにはともあれ」という表現に「とにかく」

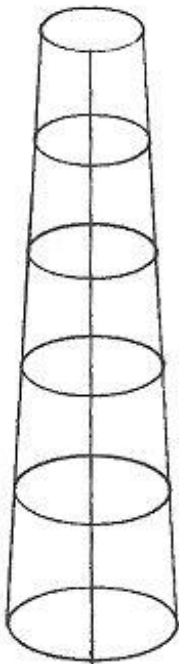
という語を使うのはいいが、「兎に角」と表現するのは宛字もルール違反。

角(つの)の生えた兎と毛の生えた亀は存在しない。「兎角亀毛」の熟語もありまして。

編集者の 蛇 足

十千 甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸
十二支 子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

“イメージを建てる”



株式会社 灘工務店

〒541-0046 大阪市中央区平野町 1-4-1

TEL 06-6228-0126

FAX 06-6228-0742

事務局より

皆様方には本会の活動にご協力賜り、厚く感謝しております。さて、諸事情から、今後は皆様方から会費を頂かないこととなりました。今後の瓦版の発行については、資金の続く限り続けてまいります。これまでご購入いただいた方々には今後もお送りさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

科学暦普及協会事務局

芦屋市奥池町二十二-118
角辻総合人間科学研究所 気付
電話 〇七九七・三八〇二二